

# SALVADOR

小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会会報

共同代表：松本敏之、大倉一郎  
 事務局：横浜港南台教会 中沢 謙  
 〒234-0054 横浜市港南区港南台 7-8-29  
 Tel:045-833-5323・Fax:045-833-6616

## 驚くべき恵み

小井沼眞樹子

新年おめでとうございます。

多くの皆さまのお祈りとご支援によって進めてまいりましたサルバドールにおける宣教奉仕が、2021 年末に無事終了いたしました。長い間のご協力をここから感謝申し上げます。たどってきた道程を振り返り、その恵みを味わっています。

## \* 出会い

まだオリンダ市のメソジスト教会で奉仕していた 2013 年 10 月に、二人の日本人聖職者(神父と牧師)と一緒にサルバドールを旅行しました。エキュメニカル社会事業支援所 CESE を訪ねますと、幹事のソニア牧師が私たちを迎えてくださいました。CESE の働きや社会問題への取り組みなど一通りの説明を終えたとき、「では CESE が具体的に支援している団体の一つ紹介してください」とお願いしました。翌日、一組の夫婦が車で私を迎えに来て、とある貧困地区の教会へ連れて行ってくださったのです。

それがヴァレリオ・シルヴァ合同長老教会とジルライニさんとの初めての出会いでした。以後、所用でサルバドールを訪ねたときには必ず彼女の家に宿泊し、いろいろ話を聴くことになりました。その当時ヴァレリオ・シルヴァ教会は 3 年前から無牧で、長老ジルライニさんがひとり教会の門を開け、信仰の灯を消さないよう教会学校を続けてきたというのです。私は彼女の忠実な信仰に心から敬服し、良い友だちになりました。きっとその時、神の国の小さなからし種が一粒、地に落ちたのでしょう。またソニア牧師とは、後に合同長老教会の女性牧師として親しくなりました。

## \* 忍耐の3年

それから3年後の 2016 年2月に、私は日本基督教団から正式に派遣されてこの教会に赴任したのです。その前年に、ダゴベルト牧師が主任牧師として着任し、私を迎えてくださいました。

任期は3年。教会員は3人の高齢女性がその地区の住人で、それ以外は牧師も含めて車で遠くから来る人たちでした。教会は高台に建っていて不揃いな急階段を上らなければ会堂に達することができません。



私たちは長老会議を開き、教会の将来を考えて、道路と同じ平面に新会堂を建てるプロジェクトを立ち上げました。その実現のためには道路沿いの2本の大木を切り倒し、高台の斜面を切り崩して平地を造成する必要がありました。ダゴベルト牧師が最大限の努力を重ね、市政府から書面上の許可を得ましたが、実際の伐採がなされず、とうとうこのプロジェクトを断念せざるをえなくなったのです。その間、教会は日曜日には教会学校と礼拝、水曜日にはミッシン教室と家庭訪問、祈祷会を行い、会員相互の交わりと友愛は深まり、少しずつ物事を計画的に運べるようになっていきました。それは、小さな教会に与えられたよき訓練のときだったと、後になって思いました。



2017 年 2 月、教会の創立記念日を祝って

## \* 建ち上がっていった

任期を2019年から21年末まで更新し、仕切り直して政府の許可を必要としない新プロジェクトを考案。小さな宣教師はポルトガル語による意思伝達力が乏しく、実践活動でできることはほんのわずかです。けれども、貧しい地区で奉仕することがとても重要な意味を持っていました。それは、ヴァレリオ・シルヴァ教会と日本の様々な教会とをつなげる橋の役割をしたことにありました。第1任期の間に、「共に歩む会」の会員は増え、篤い祈りと尊い献金を捧げ続けてくださいましたから、第2プロジェクトにすぐ着手できました。実際、建造物が建ち上がっていくのを目の当たりにしたとき、「神の国」の夢の実現を先取りするような喜びを覚えて、教会員一同ますます篤く祈り続けました。



2020年に入って間もなく、全世界に広がったコロナ禍で行動が規制され、自宅待機を余儀なくされました。しかし、私たちは礼拝ができなくても祈祷会だけはスマホのビデオ通話によって続け、ダゴベルト牧師

の献身的監督のもとで建設工事は続けられました。ときに資金不足で中断しかけながらも、2度にわたる外国送金を敢行して、新会堂建設とコミュニティセンターのリフォーム工事をなんとか終わることができたのです。

11月14日(日)、コロナ禍の社会的規制下にあっても、近隣教会の友人知人、地域の人々が来場して献堂礼拝が行われました。それはそれは、大きな喜びと感謝にあふれた礼拝でした。日本にあって共に歩んでくださったすべての方々を覚えて、こころから感謝しました。



## \* 100 年来の夢

私の証しはここで終わりではありません。昨年2月に教会の創立61年の記念礼拝をオンラインで捧げた時、思いがけない事実が浮上してきたのです。そこにヴァレリオ・シルヴァ教会という名前の由来となったヴァレリオ・シルヴァ牧師の生涯を紹介する一幕がありました。ナレーターはこう語ります。

「すべて偉大なことがらの実現は、一つの夢から始まっています。M.L.キング牧師と同様に、ヴァレリオ・シルヴァ青年もまた「私には夢がある」と言ったに違いありません。カブーラ地区のモーホ・アバカンに神の働きが実現するのを見るという夢です。その地区が現在の私たちの教会の所在地、パウ・ミウッド地区のセルタネージュにほかなりません。その夢から、ヴァレリオ・シルヴァ合同長老教会の創立が実現するに至ったのです。

サルバドールの町はずれの貧しい地区で1901年に生を受けた彼は、若い時に死ぬかと思うほど酷い暴力にさらされたそうです。1920年には自宅の横で近所の子どもたちを集めて教会学校を始めます。それは、(黒人)差別を許さない



という彼の強い意思の表明でした。カンピーナス長老教会神学校での学びを終えるとサンパウロ教区で按手礼を受け、短期間ですが2つの教会で牧会しました。

牧師としての使命に燃え、献身的に働いたことは言うまでもなく、特に力強い説教をする宣教者としてその時代によく知られていました。しかし、残念なことに病



に倒れ、37歳の若さで天に召されました。ブラジルで初めての黒人牧師でした。彼の死後、町の道路には彼の名前が付けられ、しばらくしてヴァレリオ・シルヴァ牧師長老教会が設立されて、後にヴァレリオ・シルヴァ合同長老教会となり61年の歳月を刻んできたのです。」

このように、最近6年間の関りの中でしか見ていなかった私の前に、100年前のひとりの黒人青年の夢が立ち現れて、本当に驚きました。神ご自身の「神の国」のプロジェクトが、長い年月を通して多くの牧師たち信徒たちによって担われて、小さな者の宣教の道程にまで及んだことを知らされ、畏れを覚えると同時に、一層謙虚にさせられています。

### 感謝状

ヴァレリオ・シルヴァ合同長老教会は大きな夢の実現に協力してくださったすべての方々に感謝いたします。小井沼眞樹子宣教師を派遣してくださった日本基督教団に、「小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会」に、篤志家のM.K氏に、また、お祈りと献金によって私たちの夢を実現するために協力してくださったすべての方々に衷心より御礼申し上げます。

2021年12月2日

ブラジル・バイーア州サルバドールにて  
牧師 ダゴベルト・サントス・ペレイラ

### \*新しい革袋に新しいぶどう酒を

2つの立派な建造物を与えられたものの、ヴァレリオ・シルヴァ合同長老教会の神の国プロジェクトの正念場はこれからです。地域の人々にとっては、教会の敷居がまだかなり高いようです。がらんどうの会堂で、どのようにこの地域に宣教

活動を進めていったらよいかを話し合い、神の導きを祈りながら模索を続けています。

なお、私は1月中旬にサンパウロに引っ越しますが、ヴァレリオ教会は、これからも次の福音書の言葉を固く信じて、希望をもって歩いていでしょう。少し距離があきますが、祈りながら応援し続けていきたいと思っています。

「神の国を、何にたとえようか。どのようなたとえでしめそうか。それはからし種のようなものである。地に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」（マルコ4章30-32節）

会堂献金総額: R\$546.400,00

「共に歩む会」より R\$539.300,00

(1リアル=21円に換算:約1,132万円)

前号「SALVADOR」11号の記載に誤りがありましたので、訂正いたします。3ページ右段、5-7行

【誤】朝祷会は私の祖父が創設し、その後全国組織へと発展、今年60周年を祝ったエキュメニカルな祈祷会です。

【正】朝祷会(朝食祈祷会)は大阪で誕生して全国組織へと発展。池袋朝祷会は私の祖父が創設し、今年60周年を祝ったエキュメニカルな祈祷会です。

「小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会」を  
閉じるにあたって

共同代表 松本敏之

眞樹子さん、サルヴァドールでの6年間、そしてブラジルでの26年間の宣教師としてのお働き、ご苦労様でした。

『SALVADOR』の創刊号からこの12号の原稿まで、改めてすべて読ませていただき、眞樹子さんの持つおられる不思議な力を感じています。それは、眞樹子さんが働かれるところには奇跡が起きるといことです。オランダでもそのことを感じていましたが、特にヴァレリオ・シルヴァ教会の会堂建築の決断、推進、中断、再開、そして完成というプロセスをたどりながら、そのことを思

いました。いや実は、それは奇跡というよりも、神様が始められた業であり、同時に眞樹子さんの忍耐強い祈りと努力の結果なのでしょう。「説教の回数」や「牧会の人数」というような目に見える指標で言えば、眞樹子さんの活動は小さなものであったかもしれませんが、しかし「小井沼眞樹子」という存在そのものが、ブラジルの教会と日本の教会をつなぎ、大きな力となりました。

そしてヴァレリオ・シルヴァ教会での働きだけではなく、トリンダージ共同体での奉仕、エキュメニカルな活動、カトリックの基礎共同体や神学校での交わりや学びなどの報告は、日本の私たちに大きな刺激を与えてくださり、神の国建設のために、私たちも何かしなければ、という思いにさせられました。

教団派遣の宣教師を退任された後は、サンパウロで過ごされるご予定とのこと。さまざまな形で、今後も日本の教会に向かって発信し続けてくださることを期待しています。ひとまずは、ゆっくりなさってください。

小井沼さんご夫妻とは、私が1991年にサンパウロ教会の牧師に就任して以来、ずっと不思議なお交わりがありましたので、眞樹子さんの退任には感慨深いものがあります。オランダで宣教活動を始められた時以来、大倉一郎さんと「共に歩む会」の共同代表を務めさせていただきました。鹿児島に住んでいることもあり、ほとんどのことを事務局の方々と大倉さんに任せっきりで、申し訳ありませんでした。中沢譲さん、事務局の皆様、本当にありがとうございました。

### 小井沼眞樹子宣教師と共に歩む会会計報告 2021. 7. 1～12. 30

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
会費・特別献金		支援金	
利息		事務費	
		振込手数料	
小 計		小 計	
前月より繰越		残 金	
合 計		合 計	

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
会堂建築献金		支援金	
前月より繰越		残 金	
合 計		合 計	

振替口座は1月末で終了しました。残金よりこの会報の印刷費用他を差し引いた残り全額を小井沼宣教師にお渡し致します。

年会費・特別献金者名（敬称略・順不同）  
氏名・団体名省略（84名）

会堂建築献金者名（敬称略・順不同）  
省略（4名）

### 「共に歩む会」解散のお知らせ 事務局 中沢譲

これまでご支援をありがとうございました。小井沼宣教師のブラジルでの活動は、2021年末に任期満了を迎え、終了となりました。

それに伴い、今回の『SALVADOR』発行をもって、「共に歩む会」も解散します。支援者の皆様の祈りと献金に支えられ、コロナ禍という試練にも耐えて、小井沼宣教師は現地での奉仕を最後まで続けることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。